

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私の現在位置

日本技術士会北海道本部社会活動委員会の現幹事長である永井登茂美さんからバトンを託され、今回執筆する機会を頂き大変光栄に思います。

なお定番の自己紹介については、コンサルタンツ北海道 130号 (H25年5月発行) で掲載済みですので、HP等を参照して頂ければと思います。笑

今回、この執筆を引き受けたのは、技術士を取得してからちょうど10年が経ち、私の現在位置について考える機会を与えられたと思ったからです。

振り返ってみますと、合格者祝賀会で青技交委員長だった田中真也さんに声をかけて頂きました。当時は仕事も家庭もそれなりにやれていた気でしたが、まさに「井の中の蛙大海を知らず」でした。

青技交に入会し、私の人生は大きく変わりました。技術士会の活動や同世代の技術士仲間達との交流を通じて、外には広い世界がある事を知り、私以上に多くのことを抱えているにも関わらず、どんなことにも前向きに取り組んでいるメンバーの姿を見て、自身もこうありたいという目標ができました。

青技交卒業までの7年間の間に、様々なイベントや交流の機会を持つことが出来ましたが、特に仁田智委員長と共に幹事長を務めていた2年間は今でも忘れられません。当時青技交として年間16本のイベントをこなしながら、H28北海道豪雨の災害対応にも従事しておりました。どちらも多くの仲間達と協力し合い、力を合わせることでできなければ乗り越えることが出来なかったと思いますし、その後の私が進むべき道を見つけるきっかけにもなりました。現在、職場では総括管理職として日々奮闘しながら、ミライ研の幹事長兼ES研の会員としての活動も継続しており、充実した毎日を過ごしております。

千葉 裕 (ちば ゆたか)

●建設部門

勤務先

株式会社 北海道水工コンサルタンツ



→次号は、高橋歩夢さん(建設部門)

私が所属する林産試験場は、1950年に北海道立林業指導所として旭川に開設され、その後2010年に地方独立行政法人化されて現在に至っています。林産系の地方公設試験研究機関としては国内最大級の機関であり、3部7グループの研究体制で製材・乾燥から木質材料、木質構造、バイオマス利用、きのこまでの幅広い分野について、職員数85名(研究職:59名 研究支援職:10名 事務職:16名)にて業務を行っています。私自身は1997年に大学院の博士課程を修了後に着任し、木造住宅のシックハウス問題や道産木材を用いた木製サッシの開発といった居住快適性に係る研究に従事してきました。現在は、木材小片や繊維を板状にした木質ボード類の性能検討を主に行っています。実は技術士については大学の同期や親戚に土木・地質関係の取得者がいましたが、日常業務ではお目にかかることがほぼ無く、あまり縁がなかったのが正直なところです。しかし、森林部門のうち林産科目の受験者が少なく廃止の恐れがあったことから、2013年頃に有志による受験の働きかけがあり、その一環で私も技術士を取得しました。いざ取得してみれば、マネジメントの体系的知識の取得や他分野の技術士との交流により研究の視野が広がる等の恩恵を感じています。さて、受験者数の一時的増加によって、林産科目は林業と統合し“森林・林業”として存続できましたが、根本的な解決としては技術士の積極的活用によって資格取得の風潮が高まる必要があります。その検討の場として林産分野の代表的学会である日本木材学会においても“技術士小委員会”が設置され、私も委員として参画しています。今後も技術士会諸氏の活動を参考に、林産分野の技術士の活躍の場を模索していきたいと考えています。

朝倉 靖弘 (あさくら のぶひろ)

●森林部門(林産)
●総合技術監理部門

勤務先

(地独)北海道立総合研究機構
森林研究本部 林産試験場



→次号は、西宮耕栄さん(森林部門)